

# りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙  
第215号  
11  
20. .23

表紙

・生産者の運動を知ることから始まった産直提携

P2

・これからも組合員どうしの「伝えあい」から「自分で考え自分で行動する」わたしたちへ

P3

・活動報告  
みかんの「シーズン予約」取り組み／新加入者への取り組み  
・組合員紹介 ・生産者紹介

P4

・エスコープ大阪2020年度方針  
・山村瑞子さんの詩  
・理事会報告・おたよりネット・編集後記



## 生産者の運動を知ることから 始まった産直提携

### 社会のありようを共に考える

減農薬・無農薬栽培に取り組み「上和田米」の生産者「上和田有機米生産組合」は1986年に山形県高島町で設立されました。エスコープ大阪(当時は泉北生協)との付き合いは、大阪で上和田米を食べている団体からの紹介で、日本の有機農業の先駆者であり農民詩人の星寛治さん(上和田有機米生産組合 顧問)が1987年12月に「有機農業15年」と題して講演会を開催したことから始まりました。当時泉北生協(現、エスコープ大阪)では米委員会の中に減農薬有機米部門をつくり、減農薬米の取り扱いを検討し始めた頃でした。1988年の第18回総代会の議案書には、「委員会発足以来求めていた生産者とやとめぐり会い、10月に現地(山形県高島町)を訪問、生産者と交流し、米の作られ方(堆肥・農薬)、米の質、米作りにかける情熱をうかがい、ぜひ提携しよう」と決めました」とあります。

今回は上和田有機米生産組合の6代目組合長である渡部宗雄さんにお話を伺いエスコープ大阪との交流を振り返りました。

(聞き手: 理事長 北辻美樹)



「上和田有機米のふるさとづくり」と題した星さんのことは、30年ぶりに精米所に掲示した上和田有機米生産組合の決意をこめた看板の前で。

### 上和田有機米生産組合 組合長 渡部 宗雄さん

渡部 エスコープ大阪の組合員は食に限らず、生活していく上で環境やコミュニティなどさまざまな問題意識を持ち、解決するには地域に暮らす組合員がどうすべきかと考え行動しています。

合との交流でも表れているように思います。

北辻 1973年に星さんたちが高島町で有機農業運動を始めた時、農薬の空中散布の反対運動をされますが周囲から理解されず、運動を広げるために1986年に上和田有機米生産組合が発足し、完全無農薬栽培ではなく除草剤1回散布の減農薬栽培を加えることで仲間が増え、地域に有機農業運動が広がったと伺っています。その当時私たちも「無農薬のお米を食べることは消費者のエゴではないか」という話があり、無農薬でお米を作るときに一番大変な草取り作業を手伝い(体験)して「除草剤1回のお米を食べて、全く農薬を使用しないことはどういうことかと考え、年一回は産地に草取りに行こう」と始まった「草取り交流会」は34年続いています。単に良いものを求めるのではなく、人(生産者)とまぎつながら物事をともに考え方針化する姿勢がエスコープ大阪のアイデンティティとしてありますが、上和田有機米生産組合との交流でも表れているように思います。

上和田有機米生産組合の生消運動でも、今ある

社会の問題にたいして地域を軸足に解決していくことだと考えます。例えば日本の食料自給率がカロリーベースで38%といわれていますが先進国の中でこんなに低い国はありません。近年の異常気象や国同士のトラブルなど何かあれば食料が十分に手に入らなくなりパニックになるのは目に見えています。国内自給力を高めるには地域農業を豊かにし、生産者と消費者が提携をしっかりと結び、取り組まない

と前にすすみません。便利なものが世の中に増えて、生活が良くなっているように思いますが、流されて享受するのではなく「ちょっと待てよ」と立ち止まって今起きていることの本質を考えていきたいです。また、すべてにおいて環境の一部である人間が関わることで、向かうところが同じであるエスコープ大阪とつながり、競争第一ではなく協力しあい、食を通して人間関係の構築をしていきたいと思っています。

### エスコープ大阪の運動が 上和田有機米生産組合の運動に

北辻 私たちの運動についても理解を深められ、本当に共に運動をすすめる生産者であると実感することがたくさんあります。

渡部 「さなぶり交流会」での上和田の女性たちの活躍は、もとはといえばエスコープ大阪組合員のパワフルさが刺激になっています。エスコープ大阪の組合員が活動している姿、例えばせっけん運動に取り組み姿に刺激を受けて私



草取り交流会

たちは「生活班」をつくり、せっけん運動をすすめた。最近では郷土料理の伝承に力を入れていきます。エスコープ大阪の活動に影響を受けて遺伝子組み換え反対運動にも取り組み、当時町会議員で3代目組合長の二宮隆一が町議会に、自然界に本来あるべき姿ではない作物があり容認すべきではないことを訴え、最終的には町長の決断と議会の全面的な賛同を得て2008年「たかた食と農のまちづくり条例」が制定されました。

生協祭にお邪魔したときにはいつもエスコープ大阪のバイタリティ溢れるさまざまな活動に元気をもらい、私たちも頑張ろうと思えます。

### いのちを根っこに考える

北辻 30年以上の関係の中で、1993年の冷害や2011年の福島第一原発事故などその時々の問題に対して一緒に考えてきました。

渡部 新型コロナウイルス感染拡大の影響による学校の休校などで上和田米の供給が滞る中、エスコープ大阪組合員の皆さんの食べる力で支障いただき大変感謝しています。

北辻 これからも上和田有機米生産組合との交流をすすめる、生き方を考えるきっかけとなるこの関係を継続していくことが重要であると考えています。有機農業を教えるときに宗雄さんは「いのちがあるということだよ」と話されていました。いのちをどのように考え(世界を構成する、世界につながる)地域社会をつくるしていくのか、今後も一緒に考えていきたいと思っています。

# これからも 組合員どっしりの「伝えあい」から 「自分で考え、自分で行動する」 わたしたちへ

エスコープ大阪では、新しく組合員になった方を対象にエスコープ大阪の運動や組合員活動について説明をして、運動への理解を深めて活動への参加を呼びかける取り組みをすすめています。今年も加入して1年未満の新しい組合員に向けて取り組みました。

## 大切にしている 新加入組合員とのかわり

消費材を班ごとに受け取る形態しかなかった頃は、加入直後から同じ班の先輩組合員から消費材の利用方法や、優位性、背景などを教えてもらうことができたり、1週間に一度は顔を合わせる中で組合員同士の交流が自然とできていました。

1990年代に、組合員が立ち上げたワーカーズ・コレクティブが個人配達(以下、個配。現在は職員も個配業務をおこなっている)では、1コースを「班」と考え、配達担当スタッフが「当番」という考えで個配をすすめていき、コース上で班での経験を生かしてエスコープ大阪の取り組みや消費材について伝えて運動を広げられました。しかし、個配で組合員に会えないことが多くなった今では十分に伝えることができていないか、常に課題としてあります。

その中で地域委員会では、新しく仲間になった地域組合員を訪問したり、エスコープ大阪の運動

や組織について

説明し、利用結集

を呼びかける冊

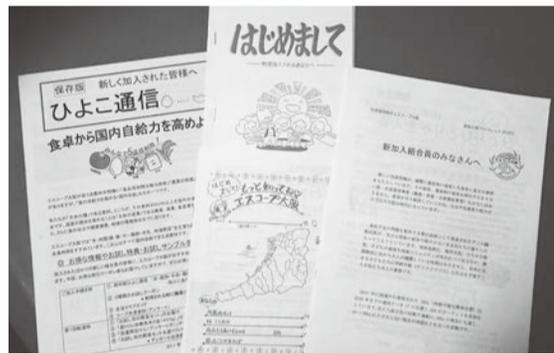
子を配布し電話

かけをおこなっていた地域委員会もありましたが、最近ではそのような取り組みができていません。2010年頃から理事会で「ひよこ通信」を全エリア対象の活動に広げ、今では職員取り組みとして受け継がれ加入後すぐにお渡ししています。理事会ではエスコープ大阪の運動と組織について説明した「新加入者冊子」と、生活クラブ連合会で作成している「生活クラブえほん」を配付しており、ご存じの方もおられると思います。

※「生活クラブえほん」…「生活クラブの消費材10原則」に基づき、「健康な食生活」をみんなで考えようという思いからつくったえほん。

## 今年も新しい仲間へ伝えたいことが たくさんあります

現在、人口減少と少子高齢化が進む日本社会の

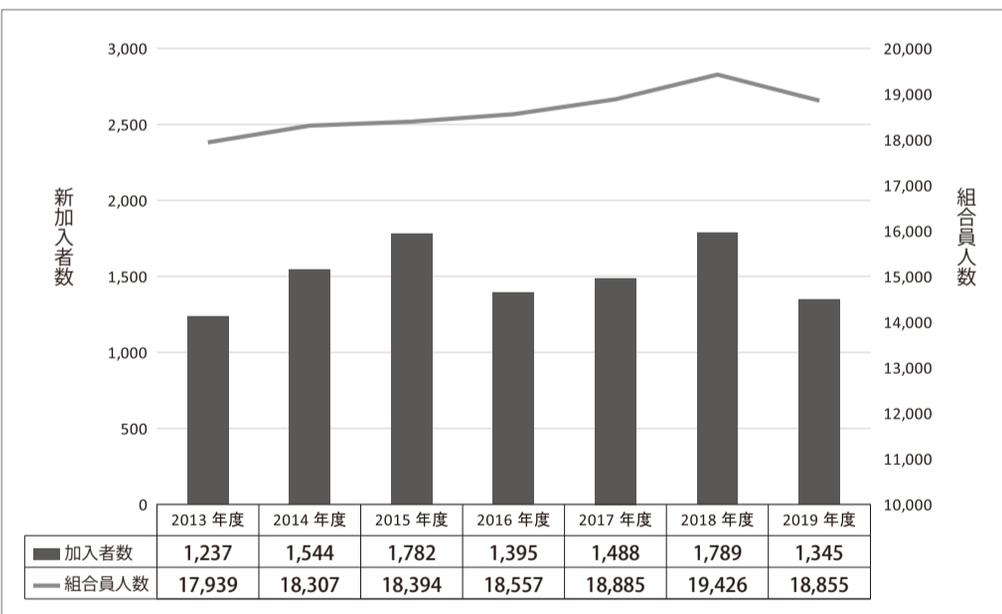


過去に新加入者に配付した冊子。右は今年配付したものの。

中で、エスコープ大阪では毎年多くの新しい組合員を迎え入れています。一方で組合員の1割(約1200人)くらいはさまざまな理由で脱退してしまいます。私たちは新しく迎え入れた組合員に対して、エスコープ大阪の活動や消費材の中身を伝え、生協組織を理解してもらう取り組みをすすめています。特に、子育て世代は次の社会を担う世代として位置づけ、積極的にアプローチをしていきたいと思っています。

今年度は班と個配を合わせた新加入者1600名の10%にあたる160名に料理企画やワークショップなどで、直接会える機会を計画していましたが、コロナ禍のため中止し、電話で個別に交流する取り組みに変更することを決定しました。

【組合員人数と加入者数】



2019年11月から2020年6月に加入した819名に、理事会が作成した冊子を送りました。冊子には、「生協は私たちを取り巻く社会状況から生まれる課題を解決するための組合員の自主運営組織であること」、「国内自給力を高めるために、予約・登録をして全員利用をすすめる主要5品目の消費材について」、「組合員同士のたすけあいのしくみ」など、組合員が取り組んでいる、社会に広げたい運動を説明しています。今回は冊子配付に合わせ、各地域委員会では消費材を介して新加入組合員へ運動を伝える企画をおこない、10名以上の参加を目標にすすめました(一部地域の活動は3面で紹介しています)。企画への参加よびかけを積極的にすすめていく中で、多くの組合員に直接説明することをすすめたましたが、理事会で取り組み主旨を十分共有できなかったため、広めたい運動をしっかりと伝えきれなかった点は反省点です。

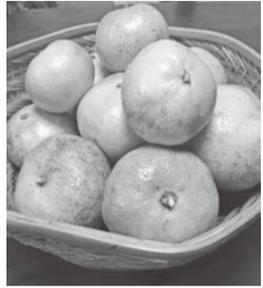
## 今後さまざまな形で 運動に参加する仲間づくりを すすめていきます

エスコープ大阪は、他人まかせにせず組合員一人ひとりが主体となって運営する組織です。ひとりではできないこともみんなで「出資」、「利用」、「運営」することで、私たちの望む持続可能な、「食」、「環境」、「福祉」を社会に広げ、次世代につなぐことができます。今後は、これまでの組合員活動に加え、インターネットを介したオンラインによる活動にも取り組んでいきます。多様な活動をおおぜいの組合員とすすめて運動をひろげ、私たちの望む持続可能な社会づくりをすすめていきます。

泉州地域  
**温州みかんの「シーズン予約」**  
**取り組み**  
 9月21日(月)～  
 10月2日(金)

泉州地域理事  
 宮田 恭子

**今年もみかんを食べて、  
 おいしい安全なみかんを  
 つなげていこう**



話で私たちのみかんの特徴や、予約して消費することの意義を伝えました。農薬を減らし、土づくりには有機質肥料を使って栽培した、安心・安全で

エスコープ大阪の産直第一号は、「豊共園」(和歌山県下津町)のみかんです。泉北ニュータウンにみかんを直接売りに来ていた生産者と組合員が出会ったのが始まりで、それ以来豊共園とは40年以上のおつきあいとなります。2017年からは、和歌山県日高市の「アイワ研究会」、岸和田市の植田さんも生産者に加わり、生活クラブ関西6生協全体で温州みかんの「シーズン予約」に取り組んでいます。

今年177トンの収量が見込まれ、8月は高温と日照りで灌水作業に追われたそうです。関西6生協全体では生産者と177.5トンの消費を約束し、エスコープ大阪では53.5トンの消費を計画しています。それに向けて泉州地域では9トンの消費目標を決め、生協に加入して間もない組合員に電話で利用を呼びかけました。生産者の苦勞、努力して育てたみかんを今年も消費したいという思いで、電

堺市街地地域  
**新加入者への  
 取り組み**  
 10月5日(月)～

堺市街地地域理事  
 川 弘美

**これから新しい仲間と  
 一緒に活動するのが楽しみです**



堺市街地地域では新加入者240人を対象に「新加入組合員のみなさんへ」の冊子を送り、「新生酪農(株)」のパンライスクリームを試食して電話で交流する組合員を募集。10名の応募があり、アイスクリー

への関心が高い方が多く、「卵や牛乳米など毎日食べるものの中身がわか

ム感想と、冊子と一緒に広げてエスコープ大阪の活動や運動について電話で話しました。

「量、値段が手頃と思った」という意見が多かったです。エスコープ大阪は組合員が出資し、利用し、自らが運営します。好きな消費材を話のきっかけにして、どの生産者がどんな思いで作ったのか、組合員とどんな話し合いをしたのか、原材料などについてたどることができて生産履歴が明らかかなことを自信を持って伝えました。その他にもリユースびんや再生可能エネルギーなどを

泉北ニュータウン地域  
**新加入者への  
 取り組み**  
 9月7日(月)  
 ～10月2日(金)

泉北ニュータウン  
 地域理事 前田 美佐代

**市販品と食べ比べてもらおうと  
 こんなに違う！と  
 わかってもらえました**



今年度エスコープ大阪では、加入して1年未満の組合員と会って話す企画を考え、計画していましたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため企画ではなく、地域委員会が冊子や電話で説明をして、「新生酪農(株)」のアイスクリームについて知り、考えてもらおう企画をおこないました。

応募者12名に電話を通して「新加入組合員のみなさんへ」の冊子と一緒に見ながら組合員活動を少しでもわかっただけのように、私の好きな消費材や定期登録している消費材を例に挙げて飼育環境や生産者のことを中心に話をしました。その他、せっけんやグリーンシステム、遺伝子組み換え反対、再生可能エネルギーなど社会に広げたいエスコープ大阪の運動について伝え、関心があるテーマなどを聞かせてもらいました。

参加した組合員から「普段食べている市販品の原材料を、改めて書き出したことで使っている添加物の多さを知り、考えさせられた」という声や、驚きなどの感想がありました。また、「新生酪農のアイスクリームは卵不使用で、甘みが自然で後味がさっぱりしていて、食後のデザートに最適」と好評でした。

今回の企画を通して新加入の組合員にエスコープ大阪の食の安心・安全をすすめる取り組みについて、消費材と市販品の違いなどを実感することで理解を深めてもらえたと思います。楽しく一緒に活動してくれる仲間が増えるように今後も声をかけていきます。

推進し環境に配慮していることや、共済や「エココロ制度」など支え合う福祉活動についても伝え、冊子を保存して繰り返し読んでほしいと伝えました。企画募集の声かけをした時は、冊子を処分して持っていない方が多く残念でしたが、冊子を通じてエスコープ大阪は「こんなことをしているのか」と理解してもらえたことが、とてもうれしかったです。

これからも企画を通して同じ組合員どうし、一緒に活動や運動をすすめていきたいと思っています。

紹介します!!  
 うちの地域の  
 組合員さんです



**泉北ニュータウンの  
 晴美台を支える  
 縁の下の力持ち**

内田 裕子さん  
 [泉北ニュータウン地域]



内田さんは約40年前に近所の人4、5名と一緒に泉北生協(現・エスコープ大阪)に加入されました。自分たちの班の解散を予定していた年の総代会で「25人班」方針が決定し、当時の地区担当職員から声をかけられて「25人班」の班長になったそうです。最初は班員19人で、最多は63人の大型班になり、野菜や豚肉、魚、もやしまで「分け合い」していたそうです。近所のガレージを3

つも借りて、代金もその場で受け取り、1円でも合わないときは徹夜して調べたそうです。試食会を開いたり、地域の祭りに出店して売り上げたお金で、「中井製茶」(京都府)や「俣ウインナークラブ」(徳島県)をバスで訪問しました。晴美台の25人班の班長さんの結束がすごくて楽しかったとのことでした。時代とともに車で買い物に行く人が増え、仕事で受け取りに來られない組合員に配達したりしているうちに生協事業でも個人配達が始まり、現在は16人で25人班を続けています。今は地域の人たちに、お弁当や誕生日ケーキを50個作って配ったり、子ども食堂に食べに来てもらったりと毎日忙しくされています。地域の大切な組合員のお一人です。聞き手 泉北ニュータウン地域理事 真柄 恭子

**私たちの生産者**

私たちの消費材の生産者を取り上げ、その人物像や消費材・生活クラブへの想いなどを紹介します。

<第15回> ハイム化粧品株式会社 営業部 営業課 石井 美有さん



ハイム化粧品キャラクター「むーくん」と

千葉県が出身の石井さんは大学卒業後、化粧品の広告制作をしたと広告代理店に就職したそうですが、その後「地元企業を盛り上げたい」と思い、千葉県にある「ハイム化粧品(株)」に入社したそうです。生協の担当になってから数多くの学習会や交流会をしました。録音していいですか?と聞かれたのはエスコープ大阪が初めてだったそうです。「とても熱心にお話を聞いてくださり感じました」とのこと。「エスコープ大阪とは1971年よりお付き合いが始まり、

ハイム化粧品の自主運営をされていたと聞いています。私たちは業界に先駆けて全成分表示に取り組み、モットーに「これからも皆さんのお肌を守っていきます」とのことでした。今一番の楽しみはひとり旅だそうで、目的は旅先でおいしい地酒に出合うこと。おいしい地酒の情報がありませんでしたら、ぜひ教えてくださいとのことでした。日本化粧品検定のコスメコンシェルジュ1級やJMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定のメイクアップアドバイザーの資格を持ち、12月にはまた新たな検定にも挑戦されるという勉強熱心な石井さん。大好きな日本酒で化粧品を作りたいと夢を膨らませておられます。



第4回  
理事会報告 <10月9日>

【8月度決算報告】

- 供給高 2億2,688万円(前年同月比138.9%)
- 組合員数 19,139名(前月比+11名)
- 一人当たりの出資金 83,327円

【9月の放射能検査結果】

9月は連合消費材759検体、関西消費材11検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①本部電話主装置と電話機の入替え

【協議事項】

- ①2020年度上期活動まとめ
- ②2021年度からの組合員活動(集まる企画について)の協議
- ③竜おうみ米2021年産米(2022RY)の数量について
- ④12月竜おうみ米取り組みについて
- ⑤豚肉加工品開発「モルタデラ」提案
- ⑥せっけん運動ネットワーク第7回定期総会
- ⑦ピオサポオンライン講座
- ⑧店舗地域準備会のカフェ企画にかわる消費材モニター企画について
- ⑨常務理事会・理事会議案についての常務理事会見解
- ⑩2020年度上期サークル活動報告および2020年度下期サークル活動計画

【報告承認事項】

- ①「北海道を核のゴミ捨て場にしないことを強く求める署名」取り組み
- ②PRTR法における「第一種指定化学物質候補物質への「飽和・不飽和脂肪酸ナトリウム塩」と「飽和・不飽和脂肪酸カリウム塩」の指定をしないよう求める要望書提出

おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

■ 212号4面「台所から環境問題に取り組むことができる「グリーンシステム」」を読んで

紙面モニター Sさん

エスコープ大阪で取り組んでいる「グリーンシステム」。そのうちのひとつ、Rびんの回収と再利用。Rびんの返却、意外と少ないのですね。今の時代びんの使用は減り、紙パックやプラスチックに代ってますね。でも、びんの再利用はCO<sub>2</sub>削減、ごみの減量につながり、ごみとして出すより返却した方が「まだまだ頑張れますよ!!」と(びんが)言ってるように思えますね。

■ 214号 2面「関西圏の主産地形成 食料基地づくり」を読んで

紙面モニター Yさん

いつもりっぷるで生協の取り組みについて読むたびに「なぜ取り組んでいるのか」の理由から日本が抱えている大きな問題を知ります。私たちの主食であるお米、タイトルにもあるようにぜひ「みんなで取り組みたい!!」ことだと思いました。

編集後記

学校からの配布プリントに、新型コロナウイルス拡大防止対策として給食のびん牛乳が紙パック牛乳に変更になりますとのことで驚いた。「これがなんでコロナ対策になるのか!」と思わず叫ぶと「びんは使いまわすからちゃうの」と息子。「そんなわけない」とプリントをよく読むと、返却するときに紙パックをたたんで返却するとか、飲み残す時はストローぐちにテープを貼って返却するとか。頭の中ははなマークでいっぱいになってしまった。来週の進路懇談は「グリーンシステム」について担任に熱く語る私がいそいだ。(K)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/



2019年の原州訪問時に師匠と弟子の再開(左がイ・ギョウクさん、右が山名さん)

韓国の原州協同社会経済ネットワーク(以下、ネットワーク)とは2000年の初め頃から交流を続けています。そのメンバーで有機米生産者のイ・ギョウクさんが酒造りにチャレンジしました。今では焼酎が主流の韓国ですが、もともと清酒もあり、復活させたいと思われたイ

さんがネットワークを通じてエスコープ大阪にお酒の生産者を紹介して欲しいと依頼があり、「山名酒造(株)」を紹介しました。イさんは半年間、山名酒造で杜氏と共に作業をしながら酒造りを学ばれ、日本では昔から夏に酒米をつくり、冬に酒を造る農家の暮らしがあったことを知り、山名純吾さんからは「韓国で日本酒を造っても仕方ないのではないか。韓国で韓国の風土に合った清酒を造った方がいいのでは」との話を聞き、自ら育てた有機米を原料に酒造りにチャレンジしてこられました。そして失敗を重ねながら12年の時を経てついに2020年の夏にイさんのお酒が出荷を迎えたと、ネットワーク

つながり、学び合い、めざすもの 昨年の11月に山名さんとネットワークを訪問した際、イさんのお酒の醸造工場で、師匠と弟子の12年ぶりの再会に立ち会いました。師匠である山名さんがイさんのお酒を恐る恐る口に、「ん、上手に造ってる。85点!」と興奮して言う、イさんが本当にうれしそうにされていました。日本同様、自給率の低い韓国ですが、家族農業を継続する取り組みがすすんでいます。エスコープ大阪と韓国の生協との相互訪問交流がひとつのかたちとなりました。

理事長 北辻美樹

エスコープ大阪  
2020年度方針



連帯して共通の課題を解決しよう

環境や遺伝子組み換え問題などは自国だけでは解決できません。アジアの人々と直接関わりお互いの地域の問題に触れながら、どのように解決していけるか、どのような「地域自立」のしくみ作りを考えているかなど、共通の課題についての交流の機会を持つことで、アジアでの連帯を意識した活動をすすめてきました。国や地域間でさまざまな軋轢が増長されている今こそ、私たちのすすめてきた人と人をつなげる草の根交流は意味を持ちます。

草の根交流が12年かけて  
実を結びました



イ・ギョウクさんのお酒「12月の醸造所」

理事長のウ・スンジャさんより報告がありました。お酒は「12月の醸造所」と名付けられ、農夫が一年の仕事を終え、寒い冬に真心を込めて造ったお酒という意味を込めたそうです。

山村瑞子さんの詩

50周年記念として初代組合員理事長(1973年~1982年在任)の山村瑞子さんが作られた多くの詩の中から生活協同組合についての詩を連載します。

組合員の拡大に行って

三十万枚のピラと  
七万軒の戸別訪問で  
あなたに出会いました

これは偶然ではありません

しかるべくしてゆきあった  
ここるところの遭遇です

水の流にさからって

多数のおもむくところに

ひとりでに連れ去られることを拒む

自分の足もとを見つめずにはいられない

そういう者同士会いました

わたくしにはあなたが必要です

あなたに会うことを

確信して

ついに尋ねあてたのです

あなたにとつてわたくしもまた

必要でありたい

わたくしが今手に持っているものは

これだけです

多くはないかもしれませんが  
この手の上に  
あなたの手を重ねてください

パンと牛乳

ごはん味噌

肉と野菜

こんなありふれた

ものそのものに

重なかみと

あじわいを

あたえようとしています

ほんものを作る

あなたとわたしの手

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●組合員コード

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはXで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事會事務局行き  
215号(2020.11.23)

●お名前

●班名

キリトリ